

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29286 プログラム名 臨床研究事件簿 2017 ～薬学的知識と実験を駆使して臨床現場の謎を
解明せよ～



開催日：平成29年8月21日(月)
平成29年8月22日(火)
実施機関：徳島大学
(実施場所) (徳島大学 薬学部)
実施代表者：阿部 真治
(所属・職名) (大学院医歯薬学研究部・助教)
受講生：高校生 36名
関連URL：http://www.tokushima-u.ac.jp/ph/admission/open_campus/ph2taiken.html

【実施内容】

[工夫した点]

- ① プログラム内容を分かりやすく伝えるために、図等に工夫を凝らした資料を作成し、受講者に配布するとともにパワーポイントを用いて十分な説明を行った。
- ② 実験を行う際は、受講生同士で活発に話し合いをしながら体験できるよう、各日1グループ6名の3グループに分かれて実施した。
- ③ グループそれぞれに受講生と年齢の近い支援学生を2名ずつ配置し、親しみやすく話がしやすい環境を整えた。
- ④ 実験は1時間毎に必ず休憩を入れ、受講生が常に集中して次の実験に取り組めるよう十分に配慮した。

[当日のスケジュール]

9:30～10:00 受付
10:00～10:20 開講式(あいさつ、オリエンテーション、科研費の説明)
10:20～11:00 講義①「薬剤師による臨床研究と治療法の開発について(講師:阿部真治)」
11:00～12:00 実験①「お薬を混合したときの変化」
12:00～13:00 昼食
13:00～13:20 講義②「配合変化を推理しよう(講師:阿部真治)」
13:20～14:20 実験②「注射用お薬の混合」
14:20～14:40 講義③「お薬の配合変化について(講師:阿部真治)」
14:40～15:40 クッキータイム・ディスカッション
15:40～16:00 修了式(アンケート記入、未来博士号授与)
16:00 終了・解散

[実施の様子]

本プログラムは薬学的知識の基盤となる薬物を混合した際の様々な配合変化について実験を行い、その結果を基に薬物治療の中で発生する問題点とその解決方法をグループごとに推理し、薬剤師による臨床研究と薬物治療法開発の魅力について理解を深めてもらうことを目的として実施した。8月21日(受講生18名)、22日(受講生18名)ともに同じプログラムを実施した。プログラムでは最初に、講義①「薬剤師による臨床研究と治療法の開発について(講師:阿部真治)」を実施し、当日に行う実験の概要について説明を行った。その

後、実験①「お薬を混合したときの変化」として薬剤を混ぜ合わせてその変化を詳しく観察し、基本的な手技について理解を深めた。

午後からは講義②「配合変化を推理しよう(講師:阿部真治)」を行い、次の実験②の詳しい説明を行った。

実験②では「注射用お薬の混合」として、特に注射薬の組み合わせで生じる配合変化について実験を行った後にそれを防ぐ新たな方法についてグループ内で討議を行った。その後、講義③「お薬の配合変化について(講師:阿部真治)」で実験②の解説を行った。



講義①



実験①



実験②



クッキータイム・ディスカッション

[事務局との協力体制]

- ① 蔵本事務部薬学部事務課総務係が、委託費の管理と支出報告書の確認を行った。
- ② 産学連携・研究推進課研究推進係が、学術振興会への連絡調整と提出書類の確認・修正等を行った。
- ③ 蔵本事務部薬学部事務課学務係が、徳島近隣の高校へのチラシ・ポスターの送付やホームページ上への掲示を行い、本事業についてのPRを行った。

[広報活動]

蔵本事務部薬学部事務課学務係が近隣高等学校へのチラシ送付を行うとともにホームページ上への掲示を行った。

[安全配慮]

- ① 実験の安全確保のため、教員2名で全体の実施状況を把握するとともに、受講生6名に対し支援学生2名を配置した。
- ② 事前に教員および支援学生を対象に安全講習を含む事前打ち合わせを行った。
- ③ 実験の際には必ず受講生に使い捨て白衣を着用させた。
- ④ より安全な過程のみ受講生に体験してもらえよう、事前に試料等の準備を行った。
- ⑤ 受講生と実施協力者を短期のレクリエーション保険に加入させた。その他の実施者については、大学が加入している保険を適用した。

[今後の発展性、課題]

参加者は徳島県内の高校生だけでなく、岡山や和歌山、兵庫からの参加もあり、ひらめき☆ときめきサイエンス事業による効果であったと考えられる。今回の実施プログラム内容は薬剤師による臨床研究に焦点を当てた内容であり、参加者の多くが薬学部志望で、さらに臨床現場での研究活動を将来の目標にしていた学生もいたので、参加者のニーズにマッチしていたと思われる。今後もさらに実施プログラムの改善を行い、若い人たちに薬剤師による臨床研究の面白さについて理解を深めていただけるよう、同様の事業を継続して実施していきたい。

【実施分担者】

久米 哲也 大学院医歯薬学研究部・教授

佐藤 智恵美 大学院医歯薬学研究部・助教

北池 秀次 徳島大学技術支援部蔵本技術部門・副技術部門長

【実施協力者】 6 名

【事務担当者】

門田 明 蔵本事務部薬学部事務課 総務係・係長